

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 北九州市立 赤崎小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒808-0004
北九州市 若松区 西小石町 8-1

E-mail : akasaki-e@kita9.ed.jp

Website : http://www.kita9.ed.jp/akasaki-e/

児童生徒数：男子 114 名 女子 99 名 合計 213 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ
いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

つなげよう！つたえよう！わたしたちの赤崎！

本校は平成15年度より、総合的な学習の時間の在り方について、子どもの活動の場を地域に求め、地域の人・こと・ものを環境・エネルギーからの視点で取り上げて、継続的にまた繰り返し体験活動を行い、地域で生きる人の生き方（願いや思い、行動）に触れ、自分のあり方を考える学習を積み重ねてきた。

年度ごとにカリキュラムを見直し、私たちの町「赤崎」のよさを地域に伝え、次世代につなげていく児童の育成に力を注いでいる。

地域を知ることを通して、地域を大切にすることを養い、持続可能な地域社会の担い手の育成に取り組んでいる。

目的

- ・ 校区の特色（次世代エネルギー拠点、リサイクル拠点（エコタウン））を知り、体験・経験することを通して、自分たちの町のよさをみつめ、地域に伝えていくことで、私たちの町「赤崎」を誇りに思う児童を育成する。
- ・ 総合的な学習の時間を再構築し、児童に育みたい力を明確にし、ESDの視点にそったカリキュラムの検討を行う。

活動内容

総合的な学習の時間を中心に、3年生の祭りを通じた学習（校区レベル）から、4年生、5年生のリサイクル活動や植林活動（地域レベル）に活動の幅を広げる。まとめの学年となる6年生のエネルギー学習では、次世代エネルギーについて学び、私たちができることを発信（市レベル、国際交流）し、私たちの町「赤崎」のよさに気づくと同時に、誇りを持ってそのよさを伝えていく活動を行っている。

各学年の取り組み

《3年生》 小石ちょうちん山笠をもりあげよう

子どもたちは、「住みよい町に」や「きれいな赤崎に」など、地域の環境への願いを神輿に表現し、山笠の夜、自分たちで作った神輿を担いで参加する。この活動は、地域の伝統行事を継承する人材の育成と環境への願いの実現とをねらった活動である。



手作りみこしで運動場をねり歩く子どもたち

《4年生》 ごみを出さない生活を目指そう

4年生の総合的な学習の時間で、1学期にリサイクル工場を見学して学んだことをもとに「ごみを出し続けると、どのような困ったことが起こるのかごみを出さないようにするにはどうしたらよいのか」などについて学習してきた。そして、その後、空き缶リサイクル活動に取り組んだ。

子どもたち44名がグループに分かれ空き缶回収に取り組んでいる。「赤崎放送局」では給食時間に、空き缶の回収を呼びかけたり、空き缶回収に協力してくれた子どもの名前を発表したりするなどの活動を行った。また、「学校に広め隊」の活動は、ポスターを作って、各学級にリサイクルの協力を呼びかけている。さらには「リサイクル通信」を発行し、全児童の家庭にリサイクル協力を呼びかける通信を発行した。

毎週2回、登校から朝の会の時間まで「空き缶回収の日」として、子どもたちは担当を決め、空き缶回収をした。

空き缶回収の際には、空き缶を持ってきた友達には、スタンプカードにスタンプを押し、集めた空き缶のプルタブを外し、別々の袋に分別をしている。空き缶を持ってきた友だちの名前を校内放送で呼んだり、集めたスタンプの数によって表彰をしたりと、他学年の子どもたちが、継続的に協力してもらえるように取り組んだ。

また、昨年度から北九州市環境局の事業で実施した「古紙回収リサイクルツアー」に参加したのをきっかけに、「牛乳パックリサイクル」に取り組みを始めた。また今年度はさらに、「雑紙回収」にも力を入れ、ごみを出さない生活を目指すために4年生から他学年、地域に向けて発信をしていた。

このように、リサイクル活動は児童がかかわりを持った活動であるとともに、保護者や地域と一体になった継続的な活動である。そのため、この活動を通して、地域の方々と結びつける働きを果たし、地域にも資源回収の意識が芽生えてきている。



上手に牛乳パックを開いて
あらうことができるよ

この、牛乳パックが
リサイクルされ、
トイレットペーパーに生まれ
変わります。



←リサイクルで生まれ変わった、
トイレットペーパー



《5年生》 私たちの町に森
を作ろう

5年生は、北九州市が取り組ん

でいる「響灘・鳥がさえずる緑の回廊創生事業」に参画をしている。この事業の目的は、私たちと自然とのよい関係を目指して、人と自然がかかわりあいながら野鳥をはじめとした動物、植物や昆虫などが生息する場をつくること、市民が憩い、楽しみ、学習できる場をつくること。会社や工場などで、人が気持ちよく働ける場をつくることにある。若松区エコタウン周辺の道路沿いなどの緑化を行い、30年後の「緑の回廊」を作ること为目标に5年生に学習をした。

子どもたちはプレ学習で、どんぐり銀行の方より森のはたらき（酸素をつくり、空気をきれいにする。動物のすみかである。人間の学びの場・遊びの場となる。また、自然災害を防ぐ役目も果たす。）について教えていただいた。

11月にはどんぐりの苗ポットづくりを行い、現在一生懸命お世話をしている。1年3か月お世話をして苗木を育てたのち、そして卒業と同時に地域の方や企業の方と渡り鳥を誘導する緑の回廊を願いながら植樹している。

《6年生》 エネルギーと環境

赤崎小学校近くに設置されている10基の風車型発電システムや白島石油備蓄基地の見学から、エネルギー問題の関心を深め、校区付近ある風力発電や若松電源開発（J-POWER）の役割について考えさせていった。

電源開発（J-POWER）の出前授業では、実際に体験学習として実際に森や発電所などの実物に触れて環境とエネルギーの関係について学んだ。まず、森の中の自然を子どもたちが体感し、森が発電とどのように関係があるのかについて学習した。森の保全がどうして発電にとって大切なのか、実際に模型を使いながら発電の仕組みを学んだ。その中で、森から自然エネルギーが作られているということ



水力発電の仕組みについて学びました

を学んだ。児童はこれまで学んできた、水力、火力、風力、太陽光のエネルギーのほかに次世代エネルギーである水素での発電について学び新しい未来のエネルギーを作り出す仕組みについても理解を深めた。

6年生は、6年間のまとめとして、また赤崎小学校の代表として、学校の環境教育の取り組みを様々な場で発信していった。



子どもの未来を拓く教育セミナーでの発表

1つ目は11月8・9日の「学習発表会」で『総合的な学習の時間の取り組み』と題

して、全校児童や保護者・地域の方への発信である。

2つ目は KITA（北九州国際記述協会）が受け入れた、北九州市へ環境のために学びに来ている研修員へ本校の環境教育を通して交流した。今年度は、南米からブラジル、エクアドルをはじめ6か国9名の方々と11月25日に本校の視聴覚室で交流を行った。

3つ目は8月7日、ウェルとばたで行われた「北九州未来をひらく教育セミナー」での実践発表を行った。

このような活動を通して、本校の環境教育を保護者から地域、環境未来都市である北九州市、さらには世界に向けて発信していった。

本年度のこれらの取り組みは、「北九州市ユネスコスクール推進校」の役割を十分果たしていると考えます。

今後は ESD カレンダーを含む、カリキュラムの見直しに着手し、ユネスコスクールの理念に基づき、持続発展教育推進拠点としての役割を果たしていく所存である。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()